

スゴモロコ (コイ科)



学名 : *Squalidus chankaensis biwae*

別名 : モロコ

大きさ : 全長約 12 cm

特徴 : 体は細長く、眼が大きい。体色は全体的に灰白色で、体側に黒斑がちらちらと見られる。口は比較的大きく、1対の口ひげは瞳の直径と同じかそれより長い。脊椎骨数は37~39個で、縦列鱗数は39~41枚。日本からは、類似種としてイトモロコ (*S. gracilis gracilis*) やコウライモロコ (*S. chankaensis* subsp.), デメモロコ (*S. japonicus japonicus*) が知られる。これらとは体側の模様や体型、脊椎骨数などで区別できるが、体型には変異があるため、やや難しい。産卵期は5~6月。

国内の分布 : 本来は琵琶湖にのみ分布 (琵琶湖の固有亜種)。琵琶湖産アユの移殖放流などで関東地方など各地に分布するようになった。

県内での分布 : 霞ヶ浦水系や利根川水系、那珂川水系、久慈川水系に分布している。久慈川では、とくに一次支流の浅川と山田川の中流部に多い。県北地域の大北川や花

園川などの各河川では確認されていない (茨城内水試, 未発表資料)。

備考 : 霞ヶ浦で採集されるスゴモロコには、体型が太短いコウライモロコに似ている印象を受ける個体もみられる (写真1)。スゴモロコは環境省のレッドリストで準絶滅危惧に選定されている。

主な文献 :

霞ヶ浦情報センター研究委員会編 (1994) 霞ヶ浦の魚たち。霞ヶ浦情報センター, 阿見町。167 pp.



写真1: 体型が太短いスゴモロコ。